

1. 方法

筆者のスタンダードの妥当性を裏付けるため、周囲から一定以上の評価を受けた“優れた実践”と“6つの要件（筆者提案）”の照合に取り組むこととした。“優れた実践／対象授業（保育）”における“6つの要件（筆者提案）”につながるメリット・デメリットの符合レベルの精査により「スタンダード」としての有効性（適否）を検証できると考えたからである。いわば「実践」サイドから「スタンダード」を評価するという「逆評価」の作業を想定した。無謀との誹りはあまんじて受ける。前代未聞だからである。

なお、筆者の“優れた実践”に関するイメージは独断ではない。おおかたの保育・教育関係者が“優れた実践”と「認める（た）実践」であり、たとえば、保育所・幼稚園、小学校における校（園）内研修会や公開研究会、あるいは、「Eテレ（NHK教育番組）」で紹介された保育や授業のドキュメンタリー等々レベルの実践である。従前、筆者は多くの“優れた実践”に出遭ってきた。

たとえば、昨年（2016年9月12日〈月〉）の「Eテレ」のシリーズ番組（現在も続行中）「奇跡のレッスン／世界最強のコーチと子ども達／アートで人間を育てる／シルバーナ・スペラーティー」である。イタリアの美術教師シルバーナ・スペラーティー氏の我が国の小学生へのレッスンを取り上げたプログラムであり、おそらく彼女の実践は各方面からの高い評価・支持を得たはずである。筆者自身、当該実践、過不足のない“優れた実践”と受け止め、「美術教育への誤解払拭に向けて（Part II）－3H美術教育の理念を基底に－」として、昨年度、半直哉氏、田中真由子氏らとの共著論説ですでに紹介している。紙数の関係もあり、今回は割愛したが、スタンダードの妥当性を検証するため、稿をあらため、広島大学を卒業した現職中堅教員との検証作業も計画している。

こうした文脈のなかで“みんなでオリジナルスタンプを使って遊ぼう！（造形遊び「絵の具遊び」から発展）”との遭遇であった。筆者自身が目の当たりにし、かつ最大級の敬意をはらえる、直近の“優れた実践”こそ、筆者の「美術（図画工作）科等担当者スタンダード（私案／2012.11.1.改訂）」を「逆評価」する際の“ものさし”として最適と考えた。2015年度来、美術教育のことを共に考えてきた三原市立沼田西幼稚園・沼田西小学校〈坂田博之校〈園〉長〉及び三原市立沼田東幼稚園〈友宗智恵美園長〉の実践を援用させていただくこととした。以下、紙数の関係もあり、粗々の紹介となるが、まずは“優れた実践”の概要を紹介しておくこととする。

2. 三原市立沼田西幼稚園・三原市立沼田東幼稚園の実践について

(1) “みんなでオリジナルスタンプを使って遊ぼう！（造形遊び「絵の具遊び」から発展）”の経緯

拙稿に援用する“優れた実践”「みんなでオリジナルスタンプを使って遊ぼう！（図-3, 5, 6）」の端緒は、平成28（2016）年7月12日（火）

の三原市立沼田西小学校（坂田博之校〈園〉長）併設園三原市立沼田西幼稚園の取り組み「広い夜空に花火を描こう！／縦157cm×横326cm」／月組5歳児〈男児3名女児0名〉計3名／指導者：三原市立沼田西幼稚園 富吉省吾教諭（図-4）、あるいは、三原市立沼田東幼稚園（友宗智恵美園長）の「およげ！みんなのこいのぼり（図-2, 8／三原市立沼田東幼稚園／2011.6. 友宗園長撮影）」だった



図-3

と筆者はとらえている。加えて第55回広島県造形教育研究大会(三原大会／平成28年11月25日)における三原市立沼田西・東幼稚園連合保育「ビー玉の大冒険! Part2 ②」をふまえ、それらが融合・進化・発展した活動(題材)と承知している。



図-4 (縦 157cm x 横 326cm)

さて、“優れた実践”としての「みんなでオリジナルスタンプを使って遊ぼう! (造形遊び「絵の具遊び」から発展) / 図-3, 5, 6」は、つい先頃の平成29(2017)年10月4日(水), 三原市立沼田西・沼田東幼稚園・沼田西小学校教育研究会(自主公開/保護者参観日)で観察した保育である。

沼田西幼稚園児(4名)及び沼田東幼稚園児(19名) / 総計23名を対象に、富吉省吾教諭(三原市立沼田西幼稚園), 宮田康代教諭(三原市立沼田東幼稚園), 天羽麻美教諭(三原市立沼田東幼稚園)による公開保育であった。すこぶるダイナミックな活動であり, 子ども達の五感覚フル稼働(脳活性)につながったであろうことは疑うことなく推察できた。昨年度の「広島県造形教育研究大会(三原大会/人間形成に向かう美術教育を求めて: みる・かく・つくる de 人づくり)」からおおよそ1年を経過し, より洗練された保育を目の当たりにすることとなった。両園の実践について, かねてより筆者は, レッジョ・エミリア(イタリア)の幼児教育を凌駕するとの賛辞をおくり続けてきた。今回もまた, 所見が裏切られることはなかった。



図-5



図-6

(2) “みんなでオリジナルスタンプを使って遊ぼう！（造形遊び「絵の具遊び」から発展）”の概要と筆者所見

当該保育の指導者（富吉省吾教諭，宮田康代教諭，天羽麻美教諭）の「熱い思い」に関する筆者の誤解・曲解を回避するため，あえて，「保育指導案」の「6 子どもの実態と教師の願い」は「全面引用」させていただくこととした。同時にこの際，筆者の「6つの要件」の妥当性を検証するため，当該文面に，筆者（若元）の独断的な「アンダーライン」及び，「スタンダード（6要件）」にかかわる「文句等」に対して「**反転**」をかけた「**6要件**」を挿入させていただいた。このこと，本紙面においてお詫びしておきたい。ただ，この作用，筆者の暴挙であることは認めつつも，当該保育のメリットの可視化，および，筆者の「見落とし・見過ごし」の再発見・再確認につながったことだけは付言しておきたい。以下が「保育指導案」の「6 子どもの実態と教師の願い（全面引用）」への筆者の作用（アンダーラインと**（6要件）**）の結果である。

6 子どもの実態と教師の願い

(1) 子どもの様子（交流の姿から）

○昨年度より始まった沼田西幼稚園と沼田東幼稚園との交流保育（**美術による教育**）は2年目を迎えた。先月の9月21日（木）に今年度最初の交流保育を行った。沼田東幼稚園の青組（5歳児）は，昨年度の経験もあり，朝登園すると沼田西幼稚園の職員に「おはようございます」と元気にあいさつをし，戸外で氷鬼やサッカー，砂場遊びなど自分のしたい遊びを楽しむ姿が見られた。一方で，交流が初めてである沼田西幼稚園の園児と沼田東幼稚園の赤組（4歳児）は新しい環境で少し緊張する子どももいたが，初めての遊具に挑戦したり，気の合う友達と砂場遊びやままごとなどを存分に楽しんだりする中で，落ち着いて過ごす姿が見られた。初めての交流ではあったが，朝の遊びの中で互いに自己紹介して「よろしくね」と握手をして仲良くなった（**美術による教育**）り，教師も遊びに入ることでルールのある遊びを一緒に楽しんだりすることができていた。翌日，交流の中で楽しかったことや嬉しかったことを聞くと，「Tくんと一緒にしっぽとりしたのが楽しかった」「みんなで一緒に絵の具で遊んだ（**美術の教育**）のがとても楽しかった」という言葉が聞かれ，子ども達にとって充実した交流になった。

○交流で行った造形遊び（**美術の教育**）では，子ども達が心を開放して絵の具で遊べるように保育室を一杯（**造形環境**）使って，白の板ダンボールで作った魔法のキャンバスを準備（**もまた魂**）した。それを見た子ども達は，「うわー」と声を上げて驚き，目を輝かせながらこれからする活動に期待する姿（**新3H**）が見られた。赤・青・黄色の絵の具を筆や刷毛やローラー（**美術の教育／もまた魂**）を使って，床や壁のように立てかけられたキャンバス（**造形環境**）に塗る中で，それぞれの道具によって線や模様が違うことに気付いたり，絵の具が幾重にも重なることでいろいろな色に変わることを発見（**美術の教育**）したりする姿が見られた（**3M**）。大きなキャンバス（**造形環境**）を用意したことで，何度も絵の具をつけて，試したり，工夫したりすることができ，満足するまで活動する（**新3H，造形環境**）ことができた。その中で，友達が絵の具の上を爪でひっかくと模様ができることに気付き（**美術の教育**），真似をしたり描いたものを友達に伝えたりする姿（**美術による教育**）が見られた。また，手形や靴下の跡もキャンバスにいっぱい広がる中（**造形環境**）で，自分の身体を使った表現方法（**美術の教育**）に気付き，道具だけでなく全身で絵の具遊びを楽しむ（**美術の教育，もまた魂**）ことができた。活動の後の振り返りでは，「絵の具を塗るのが楽しかった」（**美術の教育**）という赤組の子どもの感想や「引っ掻いた下から違う色が見えた」「ここが虹のように見える」など，それぞれの子どもの気付きや思いを全員で共有（**美術による教育**）することができた。今年度初めての交流ではあったが，友達や教師と伝え合いながら遊ぶ（**美術による教育**）ことのできた貴重な体験になった。

(2) 教師の願い

○本題材『オリジナルスタンプで遊ぼう！』は，前回の交流の時に遊んだ魔法のキャンバスを引き続き使用（**造形環境**）することで，子ども達の共通体験を生かした，つながりのある遊び（**造形環境**）を生む題材である。乾いた絵の具の上から，明度の高い絵の具を使ってスタンプをする（**美術の教育**）ことで，出来上がった形や模様を楽しむことができる（**美術の教育**）。4歳児は，スタンプ遊びの楽しさを十分に味わえるように，○△□などの形や模様のある素材を準備（**造形環境**）することで自分から試したり，工夫したりして遊ぶことができるようになることを考える。5歳児は，身近な素材を使って自分なりに工夫しながらオリジナルスタンプを作る（**美術の教育／美術による教育**）ことで，活動への意欲となるようにする。スタンプ遊びの中で，どのようにすればスタンプの形や模様がはっきり付くか，また，全員のスタンプが集まるとどのようなものが見えてくるかを考えたり，発見したりする楽しさも味わってほしい（**美術の教育／美術による教育**）。また，今回の活動を通して子ども同士のかかわりがより深められるように，子ども同士でスタンプを交換（**美術による教育**）して遊び，友達の表現のよさに気付いたり，考えたり，工夫したりしたことを伝え合ったりできるようにする（**美術の教育／美術による教育**）。また，近くの友達と出来上がったものについてどのようなものが見えるかを伝え合う

時間(美術の教育/美術による教育)を取ったりしていく。

○スタンプ遊びの面白さは、繰り返し遊べ、同じ模様が何度でもできること、形と形を組み合わせると新たな形ができること、色をつけて押すという単純な動作で模様ができること、押すことで素材の模様や線が現れ、素材そのものを見るだけでは気付かなかった特徴的な姿に気づいたり、発見したり(美術の教育、新3H)することができること、生活の中での身の回りのものが何でもスタンプの素材となり得、写し取ることができると考える。スタンプ遊びの中で、スタンプのもつ面白さが味わえるようにスタンプを押す場所を意識できるようにし、スタンプの形が残るようにする。また、友達の押したスタンプを消すように押しついでと形が消えてしまうので、自分でスペースを探しながら活動できるように声をかける(美術による教育)。ただ、多少の重なりは新しい発想やアイデアを生むと考えられるので、ある程度活動の自由性を確保して取り組めるようにする(美術の教育、もまた魂)。子どもの中から、スタンプの向きを変えて押しついで、色々な形をつなげて何かに見立てたりするような遊びが生まれた場合(3M)は、全員に知らせたり、試したりできるように声をかける。(新3H)

教師は、子どもの様子を観察しながら一緒に遊ぶこと(美術による教育/美術の教育。造形環境)で子どもの発見や気づき、活動の楽しさやみんなと遊ぶ喜びに共感していく。今回はT・Tで保育を行うため、役割を決めて柔軟に子どもへの対応(3M/新3H)や活動の進行が行えるようにする。また、最後の振り返りの場面では、絵の具の下から白い文字が出てくるしかけを準備することで、子どもの驚きを誘う(新3H)と共に、友達との伝え合いのきっかけ(美術による教育)となるようにしていきたい。

公開保育の当日、筆者の期待に違わず、驚愕の展開を観察、事後の「研究協議会」では、適切な賛辞を持ち合わせず、「感動でなんも言えねえええ！」などと、まさにTPOをわきまえることなく口走ってしまったことが記憶に新しい。「作品づくり」に向かう軽薄な美術教育とは一線を画し、「人づくり」に邁進する保育の展開は美しくさえもあった。この所見、私のみではない。「指導・助言」のお立場でご同席の三原市教育委員会幼稚園指導支援員金岡美幸氏は、すこぶる冷静に「子ども達みんなが自分の意思(志)で動いている。人間力の形成という教育の究極的なテーマに向かう素晴らしい保育」との「評言」を言われた。同感至極、と、筆者は横で、ただ頷くばかりであった。それからおよそ2ヶ月の時を経たいま、当該保育の「保育指導案」とクールなスタンスで対峙し、「アンダーライン」と「(反転)」作用(作業)を加えた結果が前掲(pp101-102)である。

公開された「保育指導案」の「6 子どもの実態と教師の願い／(1) 子どもの様子(交流の姿から)及び(2) 教師の願い」の記述の中に、こんなにも多くの「スタンダード」の「要件」にかかわる文言を拾い上げることができるなどまさに想定外であった。

この作業結果における「質と量」のたくまざる符合は、金岡美幸氏からの“優れた実践”との評言等とも相俟って、「スタンダード」が将来的には、きっと一定の支持を獲得するだろうとの一縷の望みにつながり、倦まず弛まず運動を継続していくことを心に刻んだ。

(3) 学生レポートからみえる“みんなでオリジナルスタンプを使って遊ぼう！(造形遊び「絵の具遊び」から発展)”のこと

このような言い草は妥当ではないかもしれない。が、“優れた実践”は、経験の少ない学生達にさえも響く。折々のレポートに反映される。今回の沼田の実践“みんなでオリジナルスタンプを使って遊ぼう！(造形遊び「絵の具遊び」から 発展)”もそうであった。研究会当日、筆者自身が撮影(事前許可取得)した記録(動画像)及び三原市立沼田東幼稚園長友宗智恵美園長が撮影された記録(静止画像)を視聴させ、その際の反響は小さなものではなくレポートに顕現化した。

ROのびのびと みんなと共に 広げよう／(その心)今回、富吉先生達の実践を見て気づいたこと、考えたことは多くあるがその中で特に考えたことは五つある。

一つ目は、今回の実践の意味だ。この実践には**絵画、デザイン、工作**の要素が取り入れられていた。この三つの要素を取り入れることのできる実践はなかなか思いつくことができず素晴らしいと感じた。二つ目は、**先生方は子どもたちに美しい作品を作らせよう**としていなかった。スタンプはベタベタと押すものだが、中には**ペンキのように塗っている子どももいた。先生は、その子を叱るのではなく、受け入れていた。**子どもの考える事を否定するのではなく、受け入れるこ

とによって素晴らしい作品ができたのではないかと感じた。三つ目は、連携についてである。今回は二つの幼稚園が合同で行っていた。それは簡単な事ではなく、二つの幼稚園がしっかりと連携をとらなければならない。沼田東幼稚園と沼田西幼稚園はそれぞれが造形環境を作っていた。また、親とのコミュニケーションも普段からしっかりととれているからこそできる実践だったのでないかと思った。四つ目は、3つのD(デザイン<カリキュラムのデザイン>、ドキュメンテーション、ディスコース)がきっちりしていた。先生方が子どもたちの活動の様子を写真に撮ったり、チームティーチングをしたりしていた。五つ目は、作品ができあがったあとの鑑賞だ。「なににみえるかな?」という広げる質問を子どもたちに問うことで、イマジネーションを広げることができ、人とは見え方が違うことに気づくこともできるため、イマジネイティブパワーがつくと思った。活動で終わるのではなく、そこからの鑑賞会でさらに深めていくことができる実践を私もしたいと思った。

学生達からこうした書きぶりのメールレポートが、授業週の土曜日 20:00 までに順次着信する。筆者は、時間を忘れ、一人ひとりのそれを読みつつ、コピー → 反転 → 文字拡大 → ひと言横槍



図-7: 図画工作Ⅱ受講生

(時々正面撃破)等々、「赤ペン先生」的作業を楽しむ。いつのまにやら配布用印刷原稿は完成する。すわ印刷。全員が全員のコメントから学ぶチャンスを提供することを心がけている。

なお、この課題には「プラスアルファ課題」がある。筆者は、おおかたの場合、冒頭ページ左列

への課題設定を忘れない（図-7参照）。仲間のコメントを脳働（能動／アクティブ）的なスタンスで一人静かに精読，自らの学び（ラーニング）を地道に深める力を自ら形成する切っ掛けを提供するためであり，次回授業時の持参提出を求める。今回の「課題」は以下の通りであった。

☆ このコメント集を読み，金・銀・銅メダルを授与したくなるほど，君に，感じ・考えさせてくれたのは誰のコメントでしたか。以下に根拠と共に授与候補者名を記入してください。☆☆☆☆☆☆☆☆

金 メダル授与候補者： / 根拠：
銀 メダル授与候補者： / 根拠：
銅 メダル授与候補者： / 根拠：

ところで，学生の手になるこうした文面に，最近，「我がスタンダード」の「6つの要件」にかかわる「記述」や「文言」が散見されるようになった。筆者としては頼もしい限りである。学生へのゆるやかな浸透を確認できるからである。このことを考え合わせるなら学生達のコメントも「スタンダード」の「逆評価材」として活用することも想定でき，先の学生 **RO** のメールレポート文面の引用紹介となった。ちなみに，以下，もう一件紹介し稿を閉じる。

SK / 富吉省吾先生、宮田康代先生、天羽麻美先生の保育実践のDVDを視聴して学んだことは4つあります。

1つ目：どう見るか 上から下から 左右から / 保育室の中に壁のように作品が置かれており，子ども目線で見るとどこを見渡しても作品で，子どものやる気を引き出す環境があり，造形遊び de みる・かく・つくるの研究と共通していました。また，私は環境設定で材料を置いているシートが緑色だということに注目しました。作品が赤色（青色）を多く使っていたので，子どもたちが座ったり，お話を聞くときのメリハリを持てるよう補色（わっ！（*°□°），君っ！できるな！若元）である緑色を使ったのではないかと考えました。そこにも先生方の支援が感じられました。

2つ目：危ないな でも大丈夫 支えてる / 活動する姿を見ていると，投げるようにスタンプを押す子どもや叩くように押す子どもがいました。倒れてしまう、と私は思いましたが、先生方は段ボールで高いところまで積み上げ安定させ、保護者の方、他の先生方が支えていたり多くの人の協力のもとで伸び伸びと活動できていました。その為、チームでの教育が必要不可欠であると感じました。このような先生方の指導を受ける子どもたちはとても幸せだなと感じたと同時に自分も実践できるよう、普段から「見方を広げる」ことを意識して，子どもたちの良い意味での奇想天外な想像力を受け止められるようになりたいと考えました。

3つ目：ヒーローだ 僕が一番 強いんだ / 子どもが意図していない活動を行ったとしても，それを柔軟に受け止めることの大切さを学びました。スタンプをつく活動だが，先生はそれ以外に面白さを見つけた子どもを注意するのではなく見守っていました。私はスタンプの中に手を入れ，壁に打つように押していた子どもに注目しました。どんな声を出していたかは聞こえませんが「えいっ！！」や「うおー！！」という声が聞こえてきそうなほど表情豊かで，先生はそれを嬉しそうに受け止めていました。戦隊ヒーローが好きな年ごろなので，スタンプを押すという活動の中にごっこ遊びが生まれていると考えました。先生が発達段階を考え，子どもたちの生活をしっかりと観察できているから出てくる発想と思いました。

4つ目：繋がりは どんなときにも 大切だ / 「かく・つくる」だけでなく「みる」に活動が繋がっていることで，若元先生が仰っていた，3Dカリキュラムデザインが実現されていると思いました。お友達や先生に気付きを交流することで，お互いを認め合う相互承認ができ，社会性なども身に付けることができると思いました。

DVDを鑑賞し，三原市立沼田東幼稚園さんの研究「およげ！みんなのこいのぼり」との共通点として，5つの力（感じる・気づく力、うごく力、考える力、やりぬく力、人とかがわかる力）があると考えました。感じたことを自由に表現したり，形の組み合わせ方を考えたり，みんなで気づきを発表し合うことで，子どもとともに創り上げる保育が行われていると思いました。

DVD鑑賞の中で，疑問に残ったことが1つあります。それは絵の具をパレットに直接出さず，ぞうきんを敷いていたことです。私は教材に絵の具がつきすぎるのを防いだり，凸凹部分にしっかりと色を染み込ませるためだと考えました。富吉先生方はどのような意図を持って行ったのか気になりました。長文ですが，よろしく願いいたします。若元（*^◇^）σ：SKくん！素晴らしい一語です。嫌われつつも，「課題」を課しつつたことをうれしくさえ思いました。迫力のある君の文面，学生諸君のみではなく，私も，あらためて多くのことを，感じ，考えさせられました。ブラビィィ！（*^O^*）！！若元発信

おわりに



図-8：およげ！みんなのこいのぼり／三原市立沼田東幼稚園

今回の「拙稿」の読み手のターゲットは学生である。したがって、この際は、これからの美術教育を展望し覚悟の脚下照顧であらねばならぬと腹を括った。

拙稿、まずは“自己告発”を覚悟してのそれであったこと申し添えておく。なぜなら、“6つの要件（スタンダード）”の多くが、筆者の実践（失敗、反省等々）から紡ぎ出したものだからである。確信的に言えることは、美術教師としての駆け出しの頃（20歳代前半）から今日まで、生来の負けず嫌いと思固地（独善？）から、若造若元も、若元い（元若い）若元も“流行”に巻き込まれる

ことはなかったことである。周囲の動向とは常に一線を画してきた。

いま、あらためて感謝するのは、そんな生き方・あり方が許容されたのは、初任校が「広島大学教育学部附属東雲小学校」だったことである。「研究推進」及び「成果発表」が宿命的に負わされた環境であり、幸いにも筆者はこのポストで14年間、仕事をするのを許された。当時の教師集団及び保護者等も寛容であり、あらゆる挑戦的な実践が保証された。こうした好環境にあって、筆者は、「腕の見せ所」とばかりに、着任早々、なに（絵画、彫刻、デザイン、工作）に取り組ませる場合でも、「アイデアスケッチ」の提出を求めた。ほかでもない「私の間尺にあう作品をつくらせるため」だった。制作（製作）に入る前の一定時間、一律に、それぞれの「イメージ」を「スケッチ」におきかえさせ、私の「合格」の一声を求めさせたのである。すべからず「事前チェック」をし、「私の了解」を求めさせ、このプロセスをクリアしない限り子ども達は作品づくりにはは入れないのである。あきれ果てるほど低レベルの指導（愚の極みとも言える究極の教唆先導的指導）である。始末に負えないのは、当時の筆者に一切の悪気はなかったことである。むしろ「見映えのする絵（作品）」を「かかせつくらせること」こそが“美術教師の使命”と意気込んでいたからである。ついには「精神一到何事かならざらんや！心頭を滅却すれば火もまた涼しッ！」などと息巻きつつ、子どもの「思い」や「実態」はそっちのけの熱血指導に至る。自主性や主体性、想像力や創造力の育ちを阻害する窮屈至極の指導を平然と展開していたのである。なんのための、誰のための美術教育だったのかと、いまは恥じ入るばかりである。この際、なにはともあれ、若気の至りを自ら指弾しておかなければならない。

ただし、この愚かなありようは、年々歳々、徐々に変容したことだけは付言しておく。次に与えられたポストは、広島県教育委員会教育部指導室指導主事であった。広島県内全域の幼稚園・小学校・中学校・高等学校の美術教員や美術教育関係者等と交流がかない、あるいは全国の美術教育担当指導主事や文部省視学官・教科調査官等との交流機会にも恵まれた。こうした環境の中で、様々な美術教育に関する“実践的な情報”を得ることができた。以降、広島大学の20年間、比治山大学における今日までの7年間のプロセスで学びとったこと等を整理し、紡ぎ出したのが「美術（図画工作）科等担当者スタンダード（私案／2012.11.1.改訂）」である。この際、本稿にて「6つの要件」を再検討することを通し、懺悔と再提案にかえたい。